

わかりやすい



リフォーム基礎知識

一級建築士 西田 恭子

(三井のリフォーム 住生活研究所 所長)

玄関が暗い場合、2階の床を抜くのが理想的

採光は子供部屋より玄関だったと気付く

年数が古い住宅を見るたびに「なんて、玄関が暗いんだろ!」と感じます。玄関は「家の顔」と言われつつ、広さとそこに置く調度品には気を配られても、明るさに力を注がれてはきませんでした。

その結果、せっかく綺麗にいけられた花や絵も、なんだか目に留まらず、そそくさと虫が明るさを求めるように、居間へと入ってしまいます。本来、玄関は家族や知人を暖かく迎え入れる場所です。温度と採光の確保はリフォーム時の玄関では欠かせません。

「玄関が暗い!」、このことは後から気がつく方が多いものです。採光に関しては、リビングはともかく、子供部屋の採光は必要以上に気に掛けすぎる人は多いようです。親から距離をおきたい年頃になった子供の生活は、昼間は外で過ごし、実際に子供部屋を使うのは暗くなった夜の時間帯です。あらためて、わが家に大事だったのは薄暗い玄関の解消方法だということに気付く人も多いでしょう。

リフォームの方法として、玄関の上に吹き抜けが作れるか検討してみましょう。子供が独立したり、2世帯が1世帯になったりと、家族が縮む時代には2階の床を抜き、床面積を減らすというリフォームが増えつつあります。

2階の床を解体して玄関の天井を抜くことで、2階にあったサッシから光が入り込むことになります。玄関ホールに置いた植栽に、太陽の日差しが当たり、室内で花を楽しむこともできます。吹き抜けは空間的広がりへの期待だけではなく、びっくりするほどの明るさを求めています。緑も楽しむという付加価値もつけられるのです。

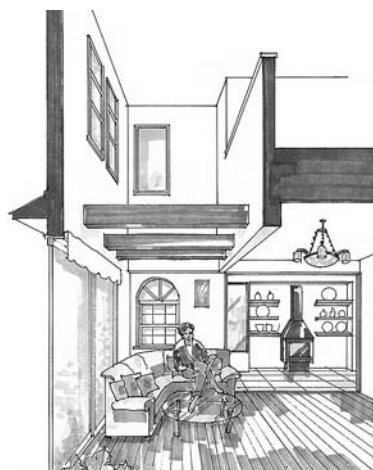
居間や洗面室も明るくしたい

2階の床を抜く方法は、玄関部分ばかりとは限りません。居間の場合もあれば、洗面室のような狭い空間でも使われています。

居間でこの方法を使うときには、空調計画も同時に行う必要があります。理想的には全館空調が望ましいのですが、床暖房をセットするだけでも効果は大きいものです。

また洗面室は本当に暗く面積も小さく、さらに窓も少ないことが多いでしょう。北側に位置する場合は多いため昼でも照明が必需品です。狭い中で身体を回転させざるをえない場合、狭いところでの明るさ不足は転倒につながりやすくなり、バリアフリーの観点からも改善が必要です。明るさの確保は単に快適というだけでなく、電気の照明に頼らない省エネ住宅リフォーム工事といえるでしょう。

1階の部屋の上はどうなっているのでしょうか? 1階と2階の平面図を重ね合わせて確認してみれば、一目瞭然です。日当たりのいい2階の光を1階に取り込むための箇所を見つけだし、家の随所に「光のシャワー」を作り出す可能性をぜひ探してみてください。



全宅連・全宅保証のホームページをご利用ください

全宅連・全宅保証は、一般の方が不動産取引に関して役立つ知識等を得られるホームページを開設しています。ホームページには不動産の基礎知識や不動産取引お役立ち情報のほか、政策提言と研究報告について専用バナーを設置し、全宅連の活動状況も閲覧できます。

URL <http://www.zentaku.or.jp/>

